

Ⅳ ノロウイルスなどの

感染性胃腸炎の対策

1 感染性胃腸炎を起こす主な原因





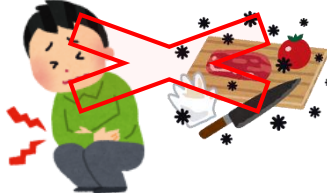

- ・細菌性のもの…腸炎ピブリオ, 病原性大腸菌(例:O157), サルモネラ, カンピロバクターなど
- ・ウイルス性のもの…ノロウイルス, ロタウイルス, アデノウイルスなど
- ・その他…クリプトスポリジウム, アメーバなど

※食中毒として発生するものもあるため, 食品の衛生管理, 調理者の手指衛生にも注意しましょう。

2 主な症状

嘔吐・下痢・腹痛・発熱など

3 対策



<p>～予防の基本は<u>手洗い</u>です～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・液体石けんを使い, こまめに手を洗う。(食事前, 排泄後, 外出後など) ・アルコール手指消毒薬の使用。 	<p>環境の消毒をする。(下記の表を参照)</p> <p>塩素系消毒剤, ペーパータオル等を使用し, ふき取り消毒をする。</p> 	<p>嘔吐した際には, スタッフが速やかに適切な嘔吐物処理!(次ページ参照)</p> 
<p>症状のある者は適切に隔離する。(他の避難者と部屋を分けるなど)</p> <p>*一人発症すると他にも患者が出る可能性があるため, 周囲の人の健康に注意する。</p> 	<p>胃腸炎症状のある人は調理や食事の配膳には携わらない。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品は素手で触らない。 ・食品は85℃以上で1分以上加熱。 ・生で食品を食べない。 ・賞味期限を確認する。 ・調理器具は漂白剤に漬けるか, 熱湯で15分以上消毒。 ・症状がある者は, 食品を取り扱わない。 

～環境の消毒～

消毒の実施場所: 患者の糞便等で汚染された可能性のある場所

塩素系消毒剤の濃度: ふん便・嘔吐物で汚染された場所は 0.1%(1000ppm)

その他は 0.02%(200ppm)

<p>トイレ</p> 	<p><input type="checkbox"/>ドアノブ <input type="checkbox"/>ドア全体 <input type="checkbox"/>手が届く範囲の壁 <input type="checkbox"/>各種スイッチ</p> <p><input type="checkbox"/>水を流すレバー・ボタン等 <input type="checkbox"/>ペーパーホルダー <input type="checkbox"/>便器, 便座, 便器蓋</p> <p><input type="checkbox"/>トイレ床 <input type="checkbox"/>トイレ用履き替えスリッパ等</p> <p><input type="checkbox"/>汚物入れやゴミ箱のふた(手で触れずに開閉可能な場合は除く)</p> <p><input type="checkbox"/>その他 汚染箇所</p>
<p>洗面所</p>	<p><input type="checkbox"/>手洗い場, 水道蛇口 <input type="checkbox"/>液体石けんの入れ物</p> <p>(その他対応: <input type="checkbox"/>固形石鹸の撤去 <input type="checkbox"/>共用タオルの撤去)</p> 
<p>居室等</p>	<p><input type="checkbox"/>患者の手が触れる範囲</p>
<p>その他</p>	<p><input type="checkbox"/>嘔吐症状があったら…<input type="checkbox"/>食器の消毒 <input type="checkbox"/>吐物の処理(次ページ参照)</p> <p><input type="checkbox"/>下痢で汚した場合…<input type="checkbox"/>下着の消毒 <input type="checkbox"/>衣服の消毒 <input type="checkbox"/>寝具の消毒 等</p> <p>(消毒液に10分つけて水洗いをする。色落ちに注意。)</p>

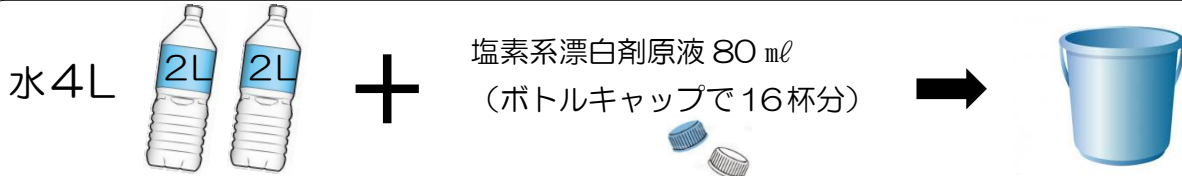
嘔吐物処理方法



～日ごろから用意しておくもの～

- 使い捨て手袋(2組あると便利) □使い捨てエプロン □使い捨てマスク □新聞紙
- 古タオルまたはペーパータオル等 □ビニール袋 □靴カバー(無ければ袋でもよい)
- 塩素系消毒薬・計量カップ □消毒液作成用バケツ

例) 塩素系消毒液(0.1%)を約4リットル作成する(～嘔吐物処理は0.1%(1000ppm)～)



- 必ず手袋をして肌などに直接接触しないようご注意ください。
- 塩素系消毒薬は漂白作用があります。
- 希釈した消毒薬は作り置きをすると濃度が薄くなるため、その都度作成することが望ましいです。

1. 使い捨てのガウンまたはエプロン, 手袋, マスクをする。

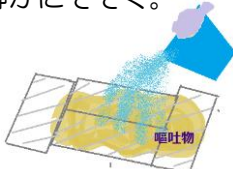
*手袋を二重につける方法もあります。



処理をする前に

1. 周囲にいる人を離れた場所へ移動させ、窓を開けるなど換気します。嘔吐物の飛散を防ぐため、**新聞紙やペーパータオルなどで覆います。**
 2. **嘔吐した人に対する対処**を行います。
 3. **嘔吐物の処理**を行います。
- ◎1・3はできれば同時進行で、嘔吐物の処理は最少人数で行います。
- ◎嘔吐物は素手で触らないよう注意します。(手袋を使用)

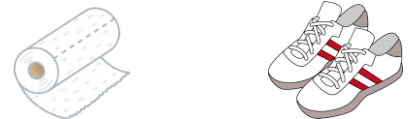
2. バケツに消毒液を作る。嘔吐物を覆っている新聞紙やペーパータオルの上から消毒液を、汚物が飛び散らないように静かにそそぐ。



3. 新聞紙やペーパータオル等を使用し、外側から内側へ向けて嘔吐物を拭き取る。拭き取った新聞紙やタオルはビニール袋へ入れる。



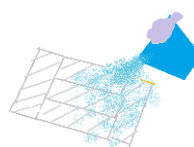
4. 二重手袋にしていた場合にはここで外側の手袋を外し、ビニール袋へ入れる。嘔吐物処理をした人の靴の裏も2で作成した消毒液に浸したペーパータオル等で一度拭き取る。



5. 嘔吐物などを入れた袋の口をしっかり縛る。嘔吐物入りのビニール袋を別のビニール袋へ入れる。



6. 嘔吐物を拭き取った場所およびその周辺(半径2mを目安)は、消毒薬で湿らせたペーパータオルなどで覆って10分程度おいておく。



7. NO.6を待っている間に、消毒薬に浸した新しいペーパータオル等で、6の周辺をふき取る。
※床の場合は外側から内側へ、壁は上から下へ向かってふき取り消毒を行う。

8. NO.6を10分程度おいたら、覆っている部分を新しいペーパータオル等でふき取り、ビニール袋へ入れる。消毒薬に浸した新しいペーパータオル等でふき取る。

9. 使用した新聞紙やタオル, 手袋やマスク, 靴カバーなどをビニール袋と一緒に入れ、しっかりと縛る。



10. 嘔吐物処理後は十分に手洗い, うがいを行う。
*2度手洗いが望ましい。



11. 塩素系消毒薬は金属を腐食させるので、消毒後10分経過したら水拭きをする。



12. もう一度、十分に手洗い, うがいを行う。

